

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2002-194785
(P2002-194785A)

(43) 公開日 平成14年7月10日 (2002.7.10)

(51) Int.Cl.⁷

E 0 3 C 1/06

識別記号

F I

E 0 3 C 1/06

データベース^{*} (参考)

2 D 0 6 0

審査請求 有 請求項の数 6 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2000-394276 (P2000-394276)

(22) 出願日 平成12年12月26日 (2000. 12. 26)

(71) 出願人 390011936

株式会社リライнс

東京都新宿区西新宿6丁目6番3号

(71) 出願人 000005832

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72) 発明者 利重 義明

東京都新宿区西新宿6丁目6番3号 株式
会社リライнс内

(74) 代理人 100089934

弁理士 新関 淳一郎

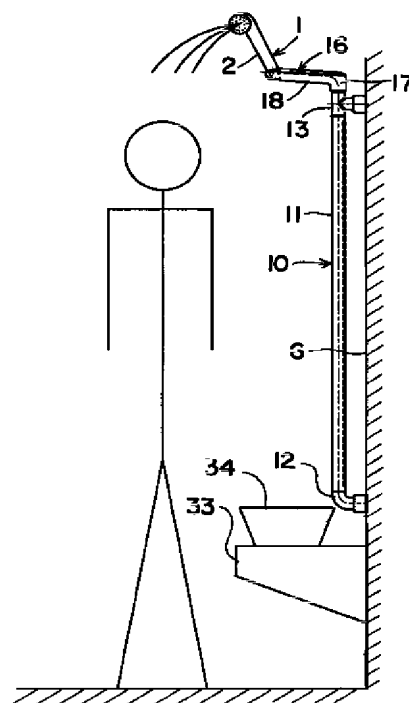
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 スライド式シャワーフック取付用のシャワーバー

(57) 【要約】

【目的】 シャワーの快適化、操作性の向上、室内空間の有効利用。

【構成】 シャワーヘッド1を上下自在に保持させるスライドシャワーホルダ部材14を装着する所定の縦長さを有する軸棒形状のバー本体11の上部には、先端にフック溝19を有し前記バー本体11に対して放射方向に突き出る上部シャワーホルダ部材16を設けたスライド式シャワーフック取付用のシャワーバー。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 シャワーヘッド1を上下自在に保持させるスライドシャワーホルダ部材14を装着する所定の縦長さを有する軸棒形状のバー本体11の上部には、先端にフック溝19を有し前記バー本体11に対して放射方向に突き出る上部シャワーホルダ部材16を設けたスライド式シャワーフック取付用のシャワーバー。

【請求項2】 請求項1において、上部シャワーホルダ部材16は前記バー本体11に対して円周方向所定位置で保持するように節度保持手段Sを介して回転自在に取付けたスライド式シャワーフック取付用のシャワーバー。

【請求項3】 請求項1または請求項2において、前記上部シャワーホルダ部材16のフック溝19は、前記シャワーヘッド1の噴出口3が手前側となるようにシャワーヘッド1を保持させる形状に形成したスライド式シャワーフック取付用のシャワーバー。

【請求項4】 請求項1または請求項2または請求項3において、前記上部シャワーホルダ部材16は、前記バー本体11の上部を壁面6に取付ける取付台座13に、前記バー本体11に対して円周方向所定位置で保持するように節度保持手段Sを介して取付けたスライド式シャワーフック取付用のシャワーバー。

【請求項5】 請求項1または請求項2または請求項3または請求項4において、前記バー本体11および前記上部シャワーホルダ部材16は、浴室に突き出す室内突出部33の上方に設けたスライド式シャワーフック取付用のシャワーバー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、浴室壁面から離れて立った場合も使用可能なシャワーヘッドを保持させるスライド式シャワーフック取付用のシャワーバーに係るものである。

【0002】

【従来技術】従来公知の、特開平9-158273号公報には、縦の所定の長さを有して上下自在にシャワーヘッドを保持させるスライドシャワーホルダ部材を装着する軸棒形状のスライド式シャワーフック取付用のシャワーバーについて記載されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】前記公知例は、単にシャワーバーのバー本体に設けたスライドシャワーホルダ部材にシャワーヘッドを係合保持させる構成のため、浴室壁面からの距離および高さが充分でなく、頭上からシャワーを浴びられないという課題がある。即ち、立ったままで頭上からシャワーを浴びると、快適であるが、従来のシャワーバーでは、高さはともかく、壁面からの距離が充分でないので立ったままで頭上からシャワーを浴びられないのである。本発明は、頭上からシャワーを快

適に浴びられるようにしたものである。

【0004】

【発明の目的】シャワーの快適化、操作性の向上、室内空間の有効利用。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は、シャワーヘッド1を上下自在に保持させるスライドシャワーホルダ部材14を装着する所定の縦長さを有する軸棒形状のバー本体11の上部には、先端にフック溝19を有し前記バー本体11に対して放射方向に突き出る上部シャワーホルダ部材16を設けたスライド式シャワーフック取付用のシャワーバーとしたものである。本発明は、前記装置において、上部シャワーホルダ部材16は前記バー本体11に対して円周方向所定位置で保持するように節度保持手段Sを介して回転自在に取付けたスライド式シャワーフック取付用のシャワーバーとしたものである。本発明は、前記装置において、前記上部シャワーホルダ部材16のフック溝19は、前記シャワーヘッド1の噴出口3が手前側となるようにシャワーヘッド1を保持させる形状に形成したスライド式シャワーフック取付用のシャワーバーとしたものである。本発明は、前記装置において、前記上部シャワーホルダ部材16は、前記バー本体11の上部を壁面6に取付ける取付台座13に、前記バー本体11に対して円周方向所定位置で保持するように節度保持手段Sを介して取付けたスライド式シャワーフック取付用のシャワーバーとしたものである。本発明は、前記装置において、前記バー本体11および前記上部シャワーホルダ部材16は、浴室に突き出す室内突出部33の上方に設けたスライド式シャワーフック取付用のシャワーバーとしたものである。

【0006】

【実施例】本発明の一実施例を図により説明すると、1はシャワーヘッドであり、シャワーヘッド握り部2の先端に噴出口3を設け、シャワーヘッド握り部2の基部に蛇口に接続したホース4の先端を止具5により固定している。しかし、浴室あるいはシャワー室の任意の場所の壁面6には、シャワーバー10を設ける。シャワーバー10は、縦に所定の長さを有した軸棒形状のバー本体11の下部および上部の夫々に取付台座12、13を設け、取付台座12、13により壁面6に取付ける。

【0007】シャワーバー10には、バー本体11の軸心方向にスライドする任意構成のスライドシャワーホルダ部材14を上下自在に取付ける。スライドシャワーホルダ部材14には前記シャワーヘッド1を保持させるフック溝を形成し、フック溝にシャワーヘッド1を係合させる。15はスライドシャワーホルダ部材14をスライド操作するハンドルである。

【0008】しかし、バー本体11の上部または上部取付台座13には、円周方向に所定角度づつ回転して保持させる節度保持手段Sを介して上部シャワーホルダ部

材16を設ける。上部シャワーホルダ部材16は、縦筒状の筒部17に該筒部17に対して放射方向に突き出る支持腕部18を設け、該支持腕部18の先端にシャワーヘッド1を保持させるフック溝19を形成して構成する。

【0009】上部シャワーホルダ部材16は、頭上からシャワーを浴びられるようにするものであり、壁面6より遠くなるべく高位置からシャワーが出るようにシャワーヘッド1を保持させる。そのため、上部シャワーホルダ部材16のフック溝19は、噴出口3が手前側になるように前記シャワーヘッド1を保持させると、好適である。上部シャワーホルダ部材16は、実施例では、前記上部取付台座13を、側面視、T型形状に形成し、この上部取付台座13に設けた節度保持手段Sを介して取付けている。

【0010】前記節度保持手段Sは任意の構成で良く、上部シャワーホルダ部材16は上部取付台座13に対して円周方向に回転自在であって所定位置に保持するように取付け、一例を示すと、上部取付台座13と上部シャワーホルダ部材16とを、その間に弾力的に継脱する凹凸部25を互いに有する下側節度部材26と上側節度部材27を介在させて、上部シャワーホルダ部材16の筒部17の上方より挿入したボルト28により互いに取付ける。29は下側節度部材26を他方側節度部材上側節度部材27に当接するように付勢するバネ、30は上部取付台座13と上部シャワーホルダ部材16の夫々に設けた凹部、31は凹部30に係合する回り止め突起である。

【0011】また、前記筒部17と支持腕部18の上面にはカバー部材32を嵌合させる。しかし、前記シャワーバー10の下方の浴室には、室内に略水平方向に突き出す室内突出部33を設ける。室内突出部33は洗面器置き台とか、カウンターと呼ばれるものであり、前後方向に所定の奥行きを有するように手前側に突き出て設けられ、この室内突出部33に対して少なくとも前記上部シャワーホルダ部材16の支持腕部18の先端に係合させたシャワーヘッド1の噴出口3が側面視手前側となるように配置すると、シャワーヘッド1からのシャワーが全身に掛かって好適である。34は室内突出部33に置いた洗面器である。

【0012】即ち、上部シャワーホルダ部材16の長さは任意であるが、浴室のシャワーを浴びる人の頭上近傍に位置する長さにとすると、最適なシャワーを浴びる状態となって好適である。しかし、前記上部シャワーホルダ部材16のフック溝19は、シャワーヘッド1の止具5の直径や長さの相違するものも係合保持するように構成する。フック溝19の先端内周には上下方向に複数段の係合段部36を形成し、フック溝19内の基部側内周面には前記係合段部36に対応してフック溝19内に突き出る複数のストッパー37を上下に並設する。

【0013】即ち、複数段の係合段部36のうち上側の係合段部36がフック溝19の軸心より遠く（大径）、下側に至るに従い近く（小径）に形成し、また、前記ストッパー37は上側より下側に至るに従い内側に突出（小径）させて形成し、大径の止具5は上側の係合段部36と上側のストッパー37により保持し、小径の止具5は下側の係合段部36とストッパー37により係合させている。

【0014】

【作用】次に作用を述べる。浴室あるいはシャワー室の任意の場所の壁面6に縦のシャワーバー10を、その下部および上部の取付台座12、13により壁面6に取付け、シャワーバー10のバー本体11には軸心方向にスライドする部材スライドシャワーホルダ部材14を上下自在に取付けているから、スライドシャワーホルダ部材14のフック溝にシャワーヘッド1に係合させて保持させ、シャワーを浴びる。

【0015】しかし、バー本体11または上部取付台座13には、バー本体11の軸心に対して放射方向に突き出る上部シャワーホルダ部材16を設けているから、立ったままでも頭上よりシャワーを浴びることができ、爽快なシャワーとなる。即ち、上部シャワーホルダ部材16は、縦筒状の筒部17に該筒部17に対して放射方向に突き出る支持腕部18を設け、該支持腕部18の先端にシャワーヘッド1を保持させるフック溝19を形成して構成しているから、バー本体11のスライドシャワーホルダ部材14にシャワーヘッド1を保持させたときに比べて高さが高いだけでなく、支持腕部18の長さ分だけシャワーバー10より離れて手前側にシャワーヘッド1を位置させることになり、立ったままでも頭上より快適で爽快なシャワーを浴びることができる。

【0016】この場合、上部シャワーホルダ部材16は、スライドシャワーホルダ部材14に対して別途取付けているから、通常のシャワーの高さ調節を損なうことなく、頭上より快適で爽快なシャワーを浴びることができ、特に、子供などの低伸長のものの操作性を低下させない。しかし、実施例では、バー本体11の上端に上部取付台座13を取付け、上部取付台座13は側面視、T型形状に形成し、上部取付台座13に節度保持手段Sを介して上部シャワーホルダ部材16を設けているから、上部取付台座13を用意するだけで、通常の上部シャワーホルダ部材16を取付けられる。

【0017】したがって、複数種類のシャワーバー10を製造する必要がなく、コストを低くする。しかし、上部シャワーホルダ部材16はバー本体11に対して節度保持手段Sを介して取付けているから、使用しないときはバー本体11に対して回転させると邪魔にならない。即ち、浴室乾燥機等によって洗濯物を干すようなとき、浴室室内空間を広く使用できる。

【0018】しかし、前記シャワーバー10の下方の

浴室には、洗面器置き台とか、カウンターと呼ばれる室内に略水平方向に突き出す室内突出部33を設けていることがあり、この場合、上部シャワーホルダ部材16の支持腕部18にシャワーヘッド1を保持させると、室内突出部33の存在により壁面6から離れて立っている場合でも、頭上からシャワーを浴びられ、快適となつて、好適である。

【0019】即ち、バー本体11のスライドシャワーホルダ部材14にシャワーヘッド1を保持させた通常使用状態において、室内突出部33となる洗面器置き台とかカウンターを有効に使用でき、使い勝手を向上させつつ、頭上からのシャワーといった使用態様を増加させ、商品付加価値を向上させる。この場合、上部シャワーホルダ部材16のフック溝19は、シャワーヘッド1の噴出口3が手前側となるように保持させる形状に形成しているから、一層、シャワーは壁面6から離れた所まで出るのので、頭上からシャワーを浴びられ、快適となつて、好適である。

【0020】しかして、上部シャワーホルダ部材16のフック溝19は、シャワーヘッド1の止具5の直径や長さの相違するものも係合保持するように構成しているから、数種類のシャワーヘッド1に対応させられ、コストを低くする。即ち、フック溝19の先端内周には上下方向に複数段の係合段部36を形成し、フック溝19内の基部側内周面には前記係合段部36に対応してフック溝19内に突き出る複数のストッパー37を上下に並設し、複数段の係合段部36のうち上側の係合段部36がフック溝19の軸心より遠く（大径）、下側に至に従い近く（小径）に形成し、また、前記ストッパー37は上側より下側に至るに従い内側に突出（小径）させて形成しているから、大径の止具5は上側の係合段部36と上側のストッパー37により保持され、小径の止具5は下側の係合段部36とストッパー37により係合して保持される。したがって、シャワーヘッド1の止具5の形状および直径の相違するものでも係合させられる。

【0021】

【効果】本発明は、シャワーヘッド1を上下自在に保持させるスライドシャワーホルダ部材14を装着する所定の縦長さを有する軸棒形状のバー本体11の上部には、先端にフック溝19を有し前記バー本体11に対して放射方向に突き出る上部シャワーホルダ部材16を設けたスライド式シャワーフック取付用のシャワーバーとしたものであるから、通常のシャワーの高さ調節機能を損なうことなく、頭上からの快適なシャワーを浴びることができる。本発明は、前記装置において、上部シャワーホルダ部材16は前記バー本体11に対して円周方向所定位置で保持するように節度保持手段Sを介して回転自在

に取付けたスライド式シャワーフック取付用のシャワーバーとしたものであるから、上部シャワーホルダ部材16は使用しないときは回転させて格納可能である。本発明は、前記装置において、前記上部シャワーホルダ部材16のフック溝19は、前記シャワーヘッド1の噴出口3が手前側となるようにシャワーヘッド1を保持させる形状に形成したスライド式シャワーフック取付用のシャワーバーとしたものであるから、壁面6から離れた位置に立って頭上からシャワーを浴びられ、一層快適となる。本発明は、前記装置において、前記上部シャワーホルダ部材16は、前記バー本体11の上部を壁面6に取付ける取付台座13に、前記バー本体11に対して円周方向所定位置で保持するように節度保持手段Sを介して取付けたスライド式シャワーフック取付用のシャワーバーとしたものであるから、上部取付台座13を用意するだけで、通常の上部シャワーホルダ部材16を取付けられる。本発明は、前記装置において、前記バー本体11および前記上部シャワーホルダ部材16は、浴室に突き出す室内突出部33の上方に設けたスライド式シャワーフック取付用のシャワーバーとしたものであるから、洗面器置き台とかカウンターなどからなる室内突出部33を有効使用して、使い勝手を向上させつつ、頭上からのシャワーといった使用態様を増加させ、商品付加価値を向上させる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 シャワーの使用態様を示す側面図。

【図2】 シャワーバーの分解図。

【図3】 上部シャワーホルダ部材の断面図。

【図4】 同平面図。

【図5】 節度手段の一例を示す斜視図。

【図6】 シャワーバーの斜視図。

【図7】 スライドシャワーホルダ部材の位置を変更した状態図。

【図8】 フック溝の断面図。

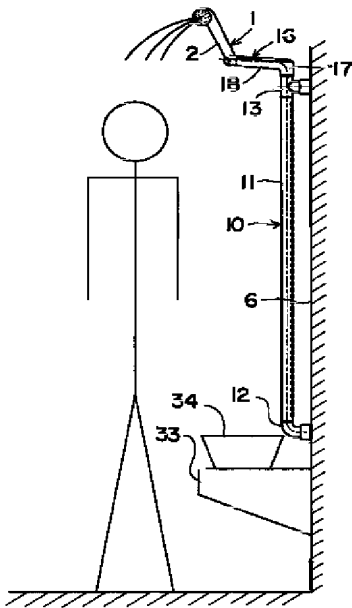
【図9】 大径止具の保持説明図。

【図10】 小径止具の保持説明図。

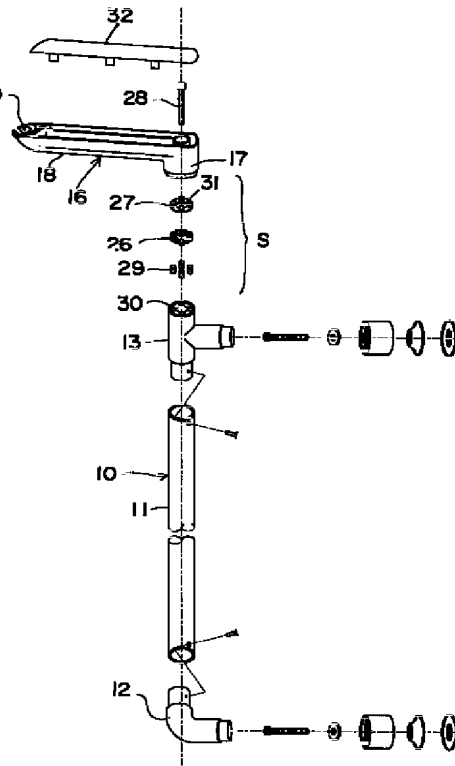
【符号の説明】

1…シャワーヘッド、2…シャワーヘッド握り部、3…噴出口、4…ホース、5…止具、10…シャワーバー、11…バー本体、12…取付台座、13…上部取付台座、14…スライドシャワーホルダ部材、15…ハンドル、16…上部シャワーホルダ部材、21…筒部、18…支持腕部、19…フック溝、25…凹凸部、26…下側節度部材、27…上側節度部材、28…ボルト、32…カバー部材、33…室内突出部、36…係合段部、37…ストッパー。

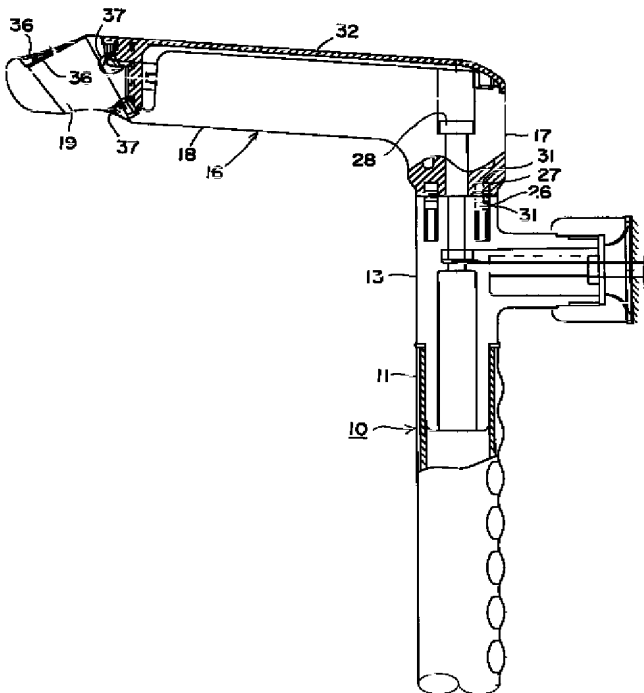
【図1】



【図2】



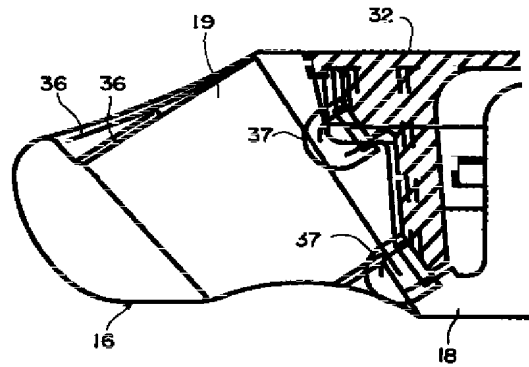
【図3】



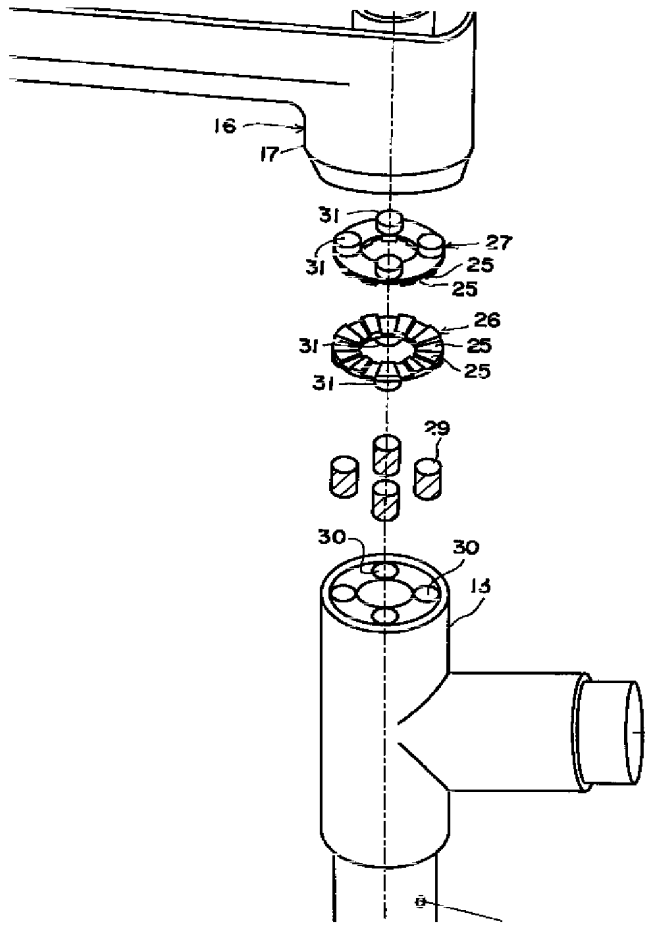
【図4】



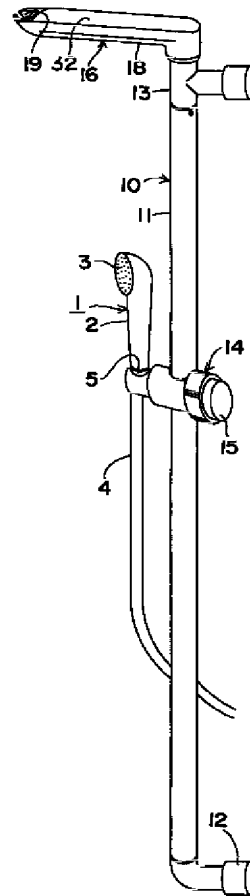
【図8】



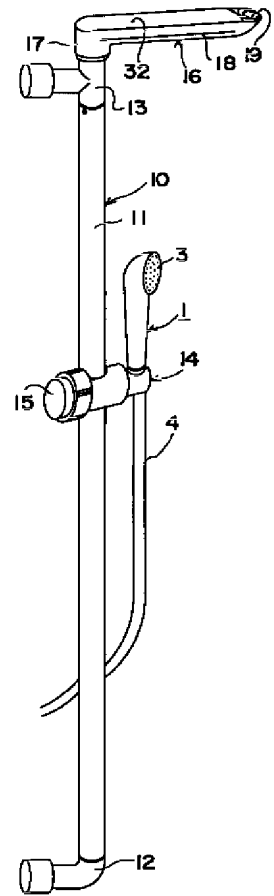
【図5】



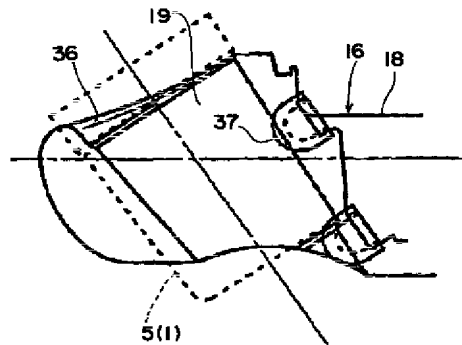
【図6】



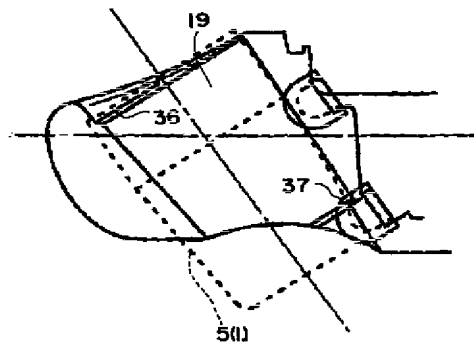
【図7】



【図9】



【図10】



フロントページの続き

(72)発明者 隅田 忠志
大阪府門真市大字門真1048番 松下電工株
式会社内

(72)発明者 千葉 秀哉
大阪府門真市大字門真1048番 松下電工株
式会社内

!(7) 002-194785 (P2002-194785A)

(72)発明者 下畦 聡司

大阪府門真市大字門真1048番 松下電工株
式会社内

(72)発明者 富田 和志

大阪府門真市大字門真1048番 松下電工株
式会社内

Fターム(参考) 2D060 BF08